

環境報告書 2022



心豊かな
くらしと
共生の社会を
創ります。



生活協同組合 パルシステム茨城 栃木



環境報告書 発行にあたって

日頃よりパルシステム茨城 栃木の事業活動や組合員活動においてご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

昨年度は新型コロナの影響があるなか、様々な活動や取り組みを再開することができました。なかでも、3年ぶりに商品展示会を対面形式による現地開催できたことは、大きな自信につながりました。今年度は、更なる活動の活性化を図り、参加の輪を組合員のみなさまとともに広げてまいります。

また、環境問題は世界的な課題となっておりますが、私たちパルシステム茨城 栃木も多くの知恵を集め組織としての社会的責任を果たしつつ、この困難な状況乗り越えていく決意です。

末尾となりますが、みなさまの健康を祈念し、今後ともパルシステム茨城 栃木へのご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



2023年5月

生活協同組合パルシステム茨城 栃木

専務理事 塚本 昭二

理 念

パルシステム茨城 栃木は、『心豊かなくらしと共生の社会を創ります。一人ひとりの愛と自立した協同の力で心豊かな暮らしの創造と誰もが公平に生きつづけられる社会をめざします』を理念とし、あらゆる活動を通じて環境に配慮し、持続可能な社会の実現を目指し取り組んでいます。

組織の概要 (2023年3月31日現在)

設立年月日 ◆ 2000年3月20日

所 在 地 ◆ 茨城県水戸市梅香二丁目1番39号

代 表 者 ◆ 理事長 青木 恭代

沿 革 ◆ 「生活協同組合コープあい」と「ひたちコープ生活協同組合」が組織合同し、「生活協同組合ハイコープ」に名称を変更。2007年6月「生活協同組合パルシステム茨城」に名称を変更。さらに2018年9月、「生活協同組合パルシステム茨城 栃木」に名称を変更。

供 給 高 ◆ 175億円

出 資 金 ◆ 68億円

組 合 員 ◆ 139,153名

施 設 ◆ 本部、無店舗事業センター7、店舗2、組合員拡大事務所1

環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステム(ISO14001)は、企業や団体などの組織が事業活動をおこなう際に、環境への影響を考慮してどうマネジメントしていくかを示す国際標準規格です。

当生協でも2003年2月にISO14001の認証を取得し、事業活動における環境負荷低減の取り組みとして温室効果ガス削減計画の策定や再生可能エネルギーの導入などをすすめてきました。職員一人ひとりの日常業務においてもPDCAサイクルに基づき、常に継続的改善をはかっています。



パルシステム茨城 栃木 環境方針

生活協同組合パルシステム茨城 栃木は、パルシステム茨城 栃木の理念「心豊かなくらしと共生の社会を創ります～一人ひとりの愛と自立した協同の力で心豊かな暮らしの創造と誰もが公平に生きつづけられる社会をめざします」のもと、環境にやさしい取り組みを強め、循環型社会づくりをめざすため、以下の環境方針を定めます。

生活協同組合パルシステム茨城 栃木は、組合員に対して商品の供給・配送事業と共済などのサービス事業をとおり、生協運動や組合員活動をおこなっています。こうした事業活動、サービスによる主要な環境影響を常に認識し、組織の環境側面に関係して、適用可能な法的要求事項及びその他の受け入れを決めた要求事項を遵守します。また、技術的、経済的に可能な範囲で環境目的・環境目標を設定し、定期的な見直しをとおり、環境負荷の軽減・汚染の予防と環境マネジメントシステム・環境パフォーマンス向上を目的に継続的改善をはかります。

- (1)地球温暖化防止のためにCO₂総排出量の削減に取り組みます。
- (2)環境に配慮した生產品・商品の普及に取り組みます。
- (3)環境負荷低減の意識向上に取り組みます。
- (4)廃棄物の削減、リユース・リサイクル品の回収向上に取り組みます。
- (5)地域と連携し、組合員とともに生物多様性保全に取り組みます。
- (6)再生可能エネルギーの拡大に取り組みます。

以上の活動をすすめるため、組織で働く、または組織のために働く役・職員が環境方針を理解し、行動できるよう、啓発及び教育活動をとおり周知徹底をはかります。

この環境方針は、生活協同組合パルシステム茨城 栃木内外に公開します。

2018年9月1日

生活協同組合パルシステム茨城 栃木

専務理事 塚本 昭二

環境方針に基づく目標と実績

パルシステム茨城 栃木では、環境に与える影響を最小限に抑えるため、環境方針をたて、方針に沿った目標を設定・評価し活動をおこなっています。

	項目	環境目標	2022年度実績	評価
環境方針 (1)	CO ₂ 排出量の削減 ※電気CO ₂ 排出係数は2021年度の排出係数を暫定で使用。確定後変更予定。	原単位 7,547kg-CO ₂ 以内 (CO ₂ 総排出量 1,355,582kg-CO ₂ 以内) ノー残業デー実施率 100%以上 (本部)	7,762 kg-CO ₂ (1,363,838 kg-CO ₂) 100 %	97.2 % 100.0 % △ ○
環境方針 (2)	環境に配慮した 生産品・商品の普及	環境配慮商品の利用向上(かしま・なか・ひたち・栃木) 便利つゆ 24,747点以上 環境配慮商品の利用向上(みと・つちうら・うしく)予約登録米・ 大隅産うなぎ・恩納村もずく・便利つゆ 24,314点以上 南三陸町の牡蠣のオーナー 195名以上(本部)	24,006 点 35,185 点 211 名	97.0 % 144.7 % 108.2 % △ ○ ○
環境方針 (3)	環境負荷低減の意識向上	環境学習会の実施(みと・つちうら・なか・ひたち・栃木) 20回以上 環境関連DVD視聴(かしま・うしく) 8回以上 環境ボランティア参加 4回以上(本部)	28 回 8 回 4 回	140.0 % 100.0 % 100.0 % ○ ○ ○
環境方針 (4)	廃棄物の削減、 リユース・リサイクル品の 回収向上	リユースびんの回収率 66.2%以上 注文用紙の回収率 73.8%以上 A Bパック・ヨーグルトカップの回収率 27.2%以上 米袋の回収率 41.0%以上 ペットボトルの回収率 58.6%以上 紙使用量の削減 523,226 枚以下 (本部)	71.3 % 71.3 % 26.7 % 44.3 % 61.9 % 526,914 枚	107.7 % 96.6 % 98.2 % 108.0 % 105.6 % 99.3 % ○ △ △ ○ ○ △
環境方針 (5)	生物多様性保全	組合員活動の場で環境関連DVD視聴(かしま・みと) 8回以上 生物多様性に関する広報物の配布(つちうら・うしく・なか・ひたち・ 栃木) 20回以上	12 回 20 回	150.0 % 100.0 % ○ ○
環境方針 (6)	再生可能エネルギーの拡大	パルシステムでんきの切り替え ウクライナ情勢を含む国際社会の動向や経済への影響により、パルシステムグループとしてパルシステムでんきの推進を見合わせる方針に変更しました。そのため、環境目標として取り組むことができなくなりました。		

● 対象期間：2022年度(2022年4月～2023年3月)

● CO₂ 総排出量：電気・ガス・水道・灯油・車両から排出される二酸化炭素の総量

● 原単位：事業所ごとに、各エネルギー消費量の合計した値を、エネルギー使用量と密接な関係にある単位 (パルシステム茨城 栃木では受注高) で割り算した値

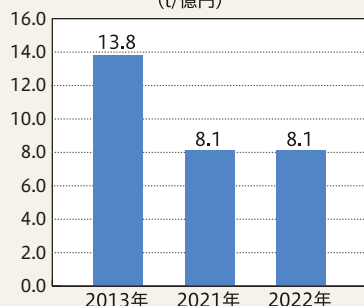
● 評価：適合○(達成率100%以上)、観察△(達成率90%以上100%未満)、不適合×(達成率90%未満)

◆ 環境方針に基づく環境目標と実績は、本部及び配送センター適用です。

温室効果ガスの削減

パルシステムグループでは温室効果ガス削減計画を策定し、「2030年までに事業にともなう二酸化炭素の排出量を2013年度比で46%削減」をめざし達成に向けて取り組んでいます。2022年度は業務用冷凍庫の冷媒入れ替えや事業所での節電キャンペーンなどを実施し、二酸化炭素の排出抑制に効果を上げることができました。

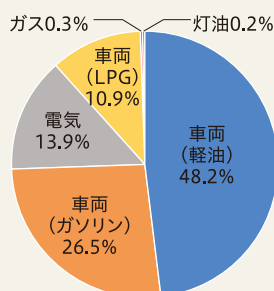
供給高1億円あたりのCO₂排出量
(t/億円)



※電気のCO₂排出係数は、2021年度の係数を暫定で使用しています。

※2013年と比較してCO₂排出量が大幅に減っているのは、電気のCO₂排出係数が下がったことが要因です。

CO₂排出量の内訳



◆電気自動車の導入

2022年9月、営業車の一部に電気自動車を導入しました。みとセンター・栃木センターにそれぞれ1台ずつ配置し、センター敷地内には充電スタンドも設置しました。電気自動車は内蔵電池に電気を充電し、その電気を使ってモーターを動かして走行します。排気ガスを排出しないため、ガソリン車と比較して二酸化炭素の排出量が少なくなると言われています。また非常時には電源として活用することも可能なことから今回の導入に至りました。



【性能・仕様】
車種：日産SAKURA (軽自動車)
バッテリー：20kWh
バッテリー充電時間：約8時間(220V)
航続距離：最大180km (WLTCモード)

◆冷凍庫 環境にやさしい自然冷媒(CO₂)への切り替え

冷媒とは、主に冷凍冷蔵庫やエアコンに使われ、熱を移動させるために用いられるガスのことです。多くの製品にはフロンガスが使われていますが、フロンはオゾン層破壊が問題視され、現在はオゾン層を破壊しない代替フロンが使われています。しかし代替フロンも地球温暖化係数が非常に高く、ノンフロン冷媒を使用しようという動きが活発化しています。その中でも、もともと自然界に存在していた物質(アンモニアや二酸化炭素など)を使った冷媒を自然冷媒といいます。

9月、つちうらセンターの業務用冷凍庫を自然冷媒(二酸化炭素)に入れ替えました。機器のエネルギー消費量が抑えられ、電気使用量の削減にもつながっています。



リユース・リサイクル回収率※

資源の国内循環と廃棄物削減のため、容器包装のリユース・リサイクルをすすめています。

※回収率/1年間に販売した商品の容器包装の量を、生協が回収した量で割り算した値

	リユース びん	紙パック	カタログ	資源 プラスチック	ABパック・ ヨーグルト カップ	注文用紙	たまご パック	お料理トレー※		米袋	ペット ボトル
								プラスチック	紙		
2021年度	65.2%	51.9%	69.8%	25.2%	26.2%	73.3%	70.6%	61.4%	—	41.0%	57.6%
2022年度	71.3%	52.1%	94.4%	24.7%	26.7%	71.3%	65.0%	88.3%	47.2%	44.3%	61.9%

※お料理セットで使用しているトレーは、2022年8月からプラスチックから紙へ材質を切り替えました。そのため前年との比較ができません。

組合員活動の取り組み

◆テーマ別組合員活動「環境」

テーマ別組合員活動は、パルシステム茨城 栃木の年度方針に基づき「食育・産直・環境・福祉平和国際交流」の4つのテーマのもと、組合員が自発的に活動しています。テーマ別組合員活動「環境」では、石けんの利用普及に向けた活動や次世代を担う子どもたちに対して環境体験型企画の開催、水環境保全企画などに取り組み、多くの組合員が参加しました。

石けん



2022年11月29日
**台所まわり
お掃除学習会**
(12名参加)
栃木センター

講師はテーマ別環境のメンバーが担当し、自分達で作成したテキストを元に『台所まわり』に絞った内容で実施しました。シンクや蛇口、レンジ台のお掃除方法など、実践を交えて伝えることでナチュラル洗剤への理解を深める機会になりました。

★小冊子「レッツ・トライ『石けん』ライフ(改訂版)」
はこちらでご覧いただけます



2023年2月23日
**ナチュラル
クリーニング講座**
(21名参加)
スマイルパル土浦館

ナチュラルクリーニング講師 本橋ひろえさんをお招きし、ナチュラルクリーニング(もともと自然界に存在する重曹やクエン酸などを使い、合成洗剤を一切使わない掃除方法のこと)講座を開催しました。汚れと洗剤の関係性を科学的根拠をもとに説明していただき、参加者からも「分かりやすく勉強になった」との声があがっていました。

涸 沼



2022年7月30日
涸沼の生き物観察会
(14家族42名参加)

茨城県環境アドバイザー川島さん、ひめま生態系再生プロジェクト協力のもと、ラムサール条約登録湿地 涸沼で実施しました。全員で虫取り網や魚網を持って川の中に入り生き物を探しました。絶滅危惧種や外来種含め20種類もの生き物を採取・観察することができました。自然の豊かさを肌で感じ、環境問題だけでなく日々の生活を見直すきっかけとなりました。



2023年2月4日
**涸沼
バードウォッチング**
(15家族32名)

茨城県環境アドバイザー石井さんに協力いただき実施し、涸沼湖畔を歩きながら観察しました。最後のまとめで野鳥の名前や種類を講師と確認し、15種類の野鳥を観察することができました。なかには図鑑に載っていない野鳥の生態や知識などを教わり、涸沼は野鳥も含め多くの希少な生き物が生息する自然豊かな場所であることを学びました。

環境報告書 2022

発行日：2023年5月(対象期間2022年4月1日～2023年3月31日)

発 行：生活協同組合 パルシステム茨城 栃木

連絡先：〒310-0022 茨城県水戸市梅香二丁目1番39号

TEL.029-227-2225 FAX.029-227-2235

<https://www.palsystem-ibaraki.coop/>

